

IoT観測機器を用いた青ノリ天然採苗技術の開発

青ノリ養殖における天然採苗



養殖網への種付きの違い（左：悪い 右：良い）

- ・青ノリ（ヒトエグサ）養殖は、自生するヒトエグサから放出される種を養殖網に付ける天然採苗によって行われている。
- ・養殖するうえでの採苗密度は、養殖網1cmあたり7個以上が適当。
- ・近年は、養殖網への種の付着が不安定で、生産にも影響。

IoT観測機器を用いた天然採苗の実証

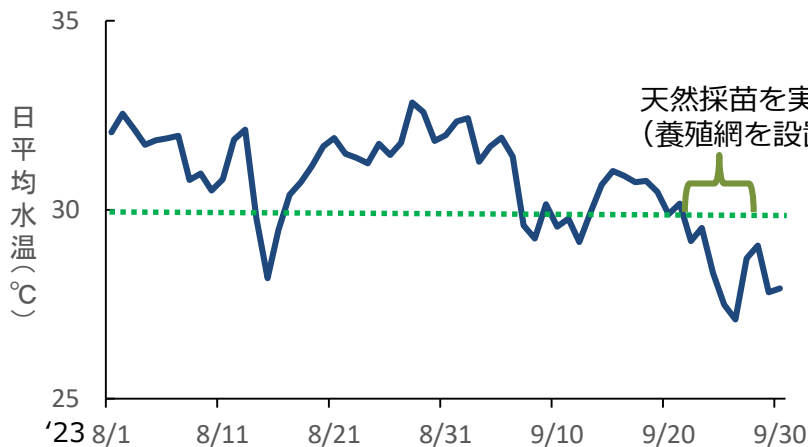


採苗漁場に設置したIoT観測機器

- ・青ノリの種の放出は、9月頃に日平均水温が30℃以下に下がった時期に多くなる傾向がある。
- ・IoT観測機器を用いて、水温をリアルタイムで把握しながら適切なタイミングで天然採苗を行うことで養殖網に高い密度で種を付着させる技術を開発した。



ヒトエグサの安定生産及び増産へ



採苗漁場における日平均水温（IoT観測機器で観測）



適切なタイミングで設置した養殖網から芽生えた青ノリ



三重県水産研究所 沿岸資源増殖研究課

Mie Prefecture Fisheries Research Institute

〒517-0404 志摩市浜島町浜島3564-3

TEL (0599)53-0130

FAX(0599)53-2225